

平成 22 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	統合的多階層生体機能学領域の確立とその応用
領域代表者	倉智 嘉久（大阪大学・大学院医学系研究科・教授）
研究期間	平成 22 年度～平成 26 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>生体システムは、遺伝子、タンパク質、細胞、組織、臓器といった高度な階層性のもと、“個体”という統合されたシステムとして機能している。本研究領域は、これまで還元的手法で得られた生命科学の研究成果を基礎として、多階層生体機能を解析するためのプラットフォームを開発しようという意欲的な研究領域である。具体的にはこれまで展開されてきたフィジオームプロジェクトとパスウェイネットワークプロジェクトを基盤とするもので、両者の有機的な連携が期待できる。デニス・ノーブル博士を中心としたグループによる同様の国際的な取り組みとの連携も具体的であり、こうした国際的な枠組みへの発展も期待できる。5 年間という限られた期間、予算の中で、どこまでの研究成果が期待できるのか、といった意見もあり、本研究領域の研究成果を十分に生み出すためには、研究領域としての目標設定をより明確にしていくことが重要である。</p>